

毎月発行!



ご意見は次のeメールアドレスへ  
公式HP & ブログは次のURLへ

sky@nagahata.jp  
http://nagahata.jp

phone : 072-878-3205  
fax : 072-877-1194

## こんにちは、市政報告です!

四條畷市議会として初の試み「地方制度を考える四條畷市議会議員連盟」が会派を超えて発足しました。その議員連盟の座長に森本議員（四條畷維新良政会）、そして副座長には長畑（畷市民クラブ）が就任しました。今後は市民のために議員のスキルアップを目指した勉強会を中心に活動を続け、政策に繋げていく考えですので宜しくお願いします。

## 「生活保護適正化」について

冒頭に述べました議員連盟において、6月1日、寝屋川市に視察へ行きました。

内容は寝屋川市が昨年より試行している“生活保護の不正受給根絶をめざす”にはどうすれば良いかの取り組みを勉強するためです。

右のポスターも寝屋川市のもので、事業内容は、2名の非常勤職員（前社会福祉職員）

を配置し、電話、メール及び窓口で不正受給や生活保護を受けられない苦情等の生活保護に関するあらゆる情報を受け、検討会の必要性を検討します。結果、不正受給が判明した件も多く、指導及び指示、また、保護の停止や廃止などの措置も行われ、生活保護の適正化へ実績があがっています。同時に議員が生活保護申請者の付き添いをする事も禁じており本市でも取り入れる必要性を感じました。ちなみに下記の表は、平成23年3月の府内43市町村の保護率(%)の順位を示したものです。本市は23位で、府内の中でも生活保護が受けやすいと良く言われますが、その様な事はありません。



1 大阪市	7 堺市	13 羽曳野市	19 枚方市
2 門真市	8 寝屋川市	14 松原市	20 貝塚市
3 東大阪市	9 藤井寺市	15 田尻町	21 河内長野市
4 守口市	10 富田林市	16 和泉市	22 泉佐野市
5 忠岡町	11 岸和田市	17 泉大津市	23 四條畷市 ←
6 八尾市	12 豊中市	18 泉南市	24 吹田市

本市の生活保護の人数推移は以下の表ですが、平成20年のリーマンショック以来、増えているのがわかってと思います。

平成19年3月	人口 57,529人の内 633人
平成20年3月	人口 57,557人の内 676人
平成21年3月	人口 57,602人の内 743人
平成22年3月	人口 57,645人の内 881人
平成23年3月	人口 57,459人の内 974人

以上に対し、平成22年度における生活保護世帯にかかっている費用は約15億2千万円で、そのうち約3億4千万円を市が負担し残りは国府の負担となります。いろいろご意見はあるでしょうが、生活保護を受けなければならない方には必要な制度に違いありません。

また、議員連盟の第2回勉強会は6月15日に行われ「人口減少社会における公共施設のあり方」と題して、元加西市長の中川氏に庁舎内で講演をして頂きました。その講演の中で、四條畷市の規模であるなら議員定数は10人まで下げても良いと言われました。次の選挙から16名の議員を12名とすることに私も賛成し決まっていますが、私が昨年度“議員定数及び報酬等特別委員会”で発言した10名の数字を言われたことにも驚きました。しかし、それ以上に、私自身は今も12名に少し不安を持っていたのも事実です。

中川氏の理由は、議員の数が多くなればどうしても地域のために活動してしまうが、議員の数が少なくなれば市のために活動してくれる、と言うものでした。そういう考え方があるのかと目から鱗で、私の12名に対する不安はすっかり打ち消されました。ちなみに中川氏は、この講演後に大阪市北区の区長に合格されました。今後のご活躍を心より願います。

## 「雁屋畑線の工事」について

川本産業株の旧社屋が解体撤去され、雁屋畑線の開通が待ち遠しくなってきました。そこで、今後のスケジュールですが6月議会における同僚議員の質問で明らかになりましたので報告させていただきます。ただ、日程は遅れる事もあります。

平成24年	7月～	9月	埋蔵文化財発掘調査
	10月～	11月	電線共同溝設備設置工事
	12月～		道路築造工事
平成25年	2月		工事完了予定

# 「学校適正配置」について②



今号も、学校適正配置に対する私の考えを述べさせていただきます。前号については、私のHPにPDFファイルでアップしています。また、新校舎の床面積を出すために図面を引いたのですが、学校規模に無理が生じたのと、2小1中とする為、前号の一部を修正し、くすのき小の児童は全員が西中（現在は南中と西中）へ進学とします。

## 学校適正配置 長畑私案（続き）

さて、敷地面積はクリアできたのですが、建物は増築する必要があります。しかし、敷地面積をクリア出来たと言っても運動場を考えればゆとりがあると言える程ではありませんので、大きな建物を立てる事はできません。そこで、小学校区を基本に中学校区を再編する学校適正配置審議会の追加案1を基本に考えるのが良いと思います。そうしますと、南中（平成28年度見込数で214名）より2小が統合された方の児童数（平成28年度見込数で436名）が多くなりますので、現在の校舎は小学生に使って頂きます。そして、中学生が利用する方を現在の校舎より小さく最低必要な大きさでの増築とします。その位置は東側がベストかと思えます。理由は、まず、接道が敷地の高さより数メートル高く、建物高さに影響する道路斜線には有利に働く点。出来れば交通量の多い道路ですので、校舎を増築するには道路幅員を広げ現在の歩道を延長する形で安全を確保するのも必要かと思えます。次に、東北角が庭になっており運動場としては利用されていない場所がある点。また、南東にはプールがあります。プールは小学生にも対応しなければならず、作り直さなければならぬのは当然の事で、プール移設を考えれば、その場所も有効利用出来る点です。つまり、プールを撤去し、その場所から北にある庭に向かって南北に細長い校舎を増築する。且つ、1階はピロティにし、運動場としても利用出来るような設計にするなど、少しでも運動場の面積を確保する配慮も必要です。プールに関しては、予算が許すのであれば、寝屋川市にある中高一貫教育の同志社香里のように増築する校舎の屋上に作るのが良いでしょう。しかし、市立教育文化センターを撤去してその場所へ作ることも可能です。ただ、壊した市立教育文化センターの跡地や広場は運動場とし、小学生の低学年が利用出来るようにした方が、メインとなる運動場の利用量が少しでも緩和出来ると思えます。

以上がハード面の簡単な説明ですが、これは、先に申しました様に、小学校区を基本に中学校区を再編する案を元にしております。つまり、中野一丁目・中野二丁目地域は南中から畷中へ、美田町地域は西中から南中へ、雁屋北町・雁屋南町・雁屋西町地域は南中から西中へ、と言う案です。例をあげれば、くすのき小の児童は南中と西中にわかれて進学していたのですが、全て西中へ行くこととなります。小学校区を再編するより問題は少ないと考えます。しかし、場所によっては学校選択制を導入するなど柔軟な対応が必要かも知れません。

いろいろと述べましたが、統廃合の候補に該当される保護者や地域の方々には、どの条件も今より良くなりたくないと納得できないのは十分理解出来ます。平成24年度からは教育に力を入れると前向きに市長が取り組んでいる中、私は南中の小中一貫校を、橋下大阪市長のように私学並みのスーパー校に変えるぐらいの気概を持って教育委員会には取り組んで頂きたいと思えます。

次に、統廃合後の東小と南小の使い道を述べさせていただきます。ただ、統廃合が決定していない中、言及するのは問題があるかと思いますが、政治に携わる者としてここまでを考えて先ほどの内容を発言しなければと思えます。

まず南小は、当分の間運動場やプールは小中一貫校が臨時的に使えるようにした方が良いでしょう。その必要がなくなった時点で、売却も視野に入れながら、庁舎に近い立地をいかした利用方法を、時代の流れの中検討するのが良いでしょう。また、東小に関しては、側道とはいえ国道163号線沿いにある立地を考えれば利用価値が大きいと思えます。歴史と観光、そして緑を市のPRポイントとしていながら有効な施策が未だ実施されていない中、東小跡地を有効利用していければと思えます。私の案は、運動場を国道163号線側道から直接乗り入れの出来る駐車場とし、“道の駅風地産物販売店”や“歴史民俗資料館”として再利用する考えです。当然、市立教育文化センターの機能をその場所へ持って行く必要もあります。

私は、常に観光地は自ら作っていかねばならないと考えています。アメリカの単なる山に立てられた“HOLLYWOOD” Signはその典型でしょう。今、国道163号線を走っている運転手に、どれだけの割合で飯盛山に山城があったと知っている方がおられるでしょうか。そういう方が興味を抱く様に、私は国道から見える場所に“飯盛山城跡”と大きなサインを立て、また、飯盛山城跡へ向かう山道を整備する。しかも、単なる整備ではありません。ハリウッドの例を出しましたので、同じ場所の話ですが“Hollywood Walk of Fame”をご存知ですか。歩道にスターの名前を刻んだ星形プレートを埋め込んだものです。飯盛山城跡地まで行く山道に、石畳をひいて、ところどころ昔の武将の名前が入った石畳があれば面白いのではないのでしょうか。それとも、河内キリシタン関係の名前を入れても楽しいでしょう。そういう風にいるいろな仕掛けをして行く。つまり、山道と言うより散策路としての充実を考えるのです。



そのスタートが、私は東小跡地の運動場を利用した駐車場だと考えます。そして、東小跡地の校舎には、公共トイレを併設した休憩場や地産野菜を売る場所、それに加えて、歴史民俗資料館があれば絶対に人が集まる賑やかな場所になるはずです。

現在の歴史民俗資料館は、歴史のある東高野街道沿いにあり、且つ、民俗展示室は国指定登録有形文化財建造物に指定されるなど貴重なものではあるのですが、道路が狭い上に周囲に観光バスが駐車する場所すら確保出来ず、決して立地が良いとは思えません。観光地の基本を考えれば、駐車場が整備されていることは絶対条件なのです。また、葎屋北遺跡から出土した2000箱もの貴重な資料。保存・公開できる環境を整えば、大阪府教育委員会から無償譲渡も可能と聞いております。それらも東小跡地であれば可能となるのです。これから、45周年、50周年と市史を編纂していく等、本市の歴史に関する場所はどれだけ広くても良いはずですが。

以上、後半は学校適正配置からポイントがずれてしまいましたが、四條畷市の将来を担う子ども達の為に私が考えた案であります。